
これしか知らない

LIDY

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

これしか知らない

【NZコード】

N1978C

【作者名】

LIDDY

【あらすじ】

一人じゃないと意味がない。稚拙な恋人の戯言。

(前書き)

性的表現があります。

突き上げられるリズムがあたしを翻弄する
背中に回した腕に力を込めて
あたしは身体を支配する痛みと快感に耐える
濡れているけど擦られ過ぎて痛い
多分どこか切れてるんだろうなと思つ
「…中にだすよ…」
耳元で囁かれてあたしは頷く
「い、いよ…」
噛みつくようにキスをされてあたしはぐえつた声をあげた
荒い息が重なりあつて
彼の躰があたしの上に落ちてくる

「さすがに量少ねぇ」
「…今日6回目だつけ？」
微かに笑う。
「し過ぎ、かな」

身体を動かすのがだるい。

芯から力が抜けてる。

「ねえ、暫くいってて

セックスした後にすぐに離れられるのは嫌い。

「ずっといっててねあ

「…うん」

耳元で囁かれる声の気持ち良さにつづる。

「なんかさ、こんなこと言うとあれだけじゃ。
俺、これしか愛情の表しかたがわからねえ。」

迷った子供のようにならぬつものだから
唯、唯、愛しくて仕方ない気がする。

彼の湿った髪に指をいれて

あたしはその感触にうつとりする

くすり、と笑うと彼が困った顔をした。

「笑うと、綿まる

「氣持ついいっ！」

困った顔をした彼は
あたしの肩に顔を埋めた。

「7回目は休まないと流れに無理

彼の匂いを吸う。

煙草よりも悪質で、癖になる香り。

いつも彼と繋がっていると思つ。

体と心は不便だ。

繋がつていないと、安心出来ない。

でも溶け合つてしまつて一つになつては意味がない。

お互ひが別だからあなたを愛しく思えるのだから。

別々の体で、あなたと繋がつていいたい。

あなたを繋がつていられる方法を
あたしは、知らない。

これしか、知らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1978c/>

これしか知らない

2010年10月11日19時30分発行